

西中だより

平成27年度 No.1
平成27年 4月14日
須賀川市立西袋中学校
発行責任者 鶴巻 弘士

&&& 感動をおぼえた生徒の姿 &&&

- 4月1日(水)午前7時30分頃、校舎北側の指定された駐車場に車を止め、歩いて正面玄関へ向かいました。校庭では、特設陸上部の生徒が一生懸命練習していました。その様子を見ながら玄関に一步足を踏み入れた時でした。「おはようございます。」と制服を着た生徒会の役員の皆さんが並んで私を迎えてくれました。(今までになかった、さわやかな感動です。)
- 玄関正面の柱には「ようこそ!鶴巻弘士校長先生、柳沼宏美先生」と名前と迎える言葉を書いた紙が掲示してありました。年甲斐もなく「よーし、やるぞ!」と熱い気持ちになりました。温かく迎えてくれた生徒達や先生方に感謝して、西袋中学校職員の一員になれた喜びを強く感じた瞬間でした。

◆◆◆ 生徒会代表「松田 彩花さん」の挨拶に感動して ◆◆◆ 「:以下、感じたこと」

- 着任式において、生徒会代表の松田 彩花さんから歓迎の言葉を頂きました。とても良い内容でしたので要点を紹介します。
 - ・「うらかな春の光を浴びて・・・」:日本人は季節を大切に感じて、公式の場では必ずはじめに季節の変化を表わす言葉を遣います。最初は教えられますことですが、そのうち自分でも感じるようになり手紙などに用いるようになります。
 - ・「西袋中学校の歴史について」:昭和22年開校、今年で創立68年目を迎える歴史と伝統のある学校です。ちなみに私の年は現在58歳で、もうすぐ59歳を迎えます。
 - ・「私達は、このような素晴らしい環境の中で、先生方と生徒全員で、夢と希望を持って、学校生活を送っています。」:素直で、先生方への尊敬の気持ちと生徒達は先輩や後輩の仲もよく、それぞれの夢の実現に向けて頑張っていこうとする気持ちが素直に伝わってきました。
 - ・「授業や部活動の場において、先生方からのご指導もいただき、何事にも積極的に取り組みたいと思います・・・」:私のこれまでのつたない教職経験から言えることは、素直な気持ちと前向きな姿勢で授業や部活動に取り組む生徒は、必ず力強く、賢く、逞しく成長します。そのためには、本人の努力はもちろん大切ですが、それと同じように生徒を取り巻く環境(物的・人的)を良くしなければなりません。
- 生徒達や先生方、そして保護者の皆様との出会いは「一期一会」と言われます。この出会いをよい思い出とするために、出来ることから着実に先生方と一緒に生徒達の為に歩んで行こうと考えますので、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。



\$ # 朝の交通指導から感じたこと # \$

- 本校南側にあるY字路の交差点に立って交通指導をしていました。実際、その場に立って指導してみると、朝の登校時間帯には車の数が非常に多くなり、危険度が高まることを実感しました。
1年生は、自転車通学に慣れるまでは、十分すぎるほど注意してほしいと思います。また、2・3年生は、慣れてきたことに注意して、慎重に自転車に乗る必要があります。なぜなら、Y字路が緩やかな坂道で、カーブしているためにスピードが出やすくなるからです。交通教室で学んだことを忘れずに、自分の命を守る習慣づくりに努めてください。

=== 校長のつぶやき ===

- 「お城の石垣は、なぜ崩れにくい」:何百年も前に建てられたお城を支えてきたのが「石垣」です。間近に見ると、大きさも形も違った石が、それぞれ支え合って組まれていることに気がきます。学校も同じで、一人一人違った生徒や先生が、それぞれの良さを発揮しながら支え合うから、西袋中学校らしさが生まれてくるのだと思います。やがて月日が過ぎると“歴史と伝統”になっていきます。
- 「小さなことの積み重ねなくして、大事を成すことはできない」:これは、横綱・白鵬関の地道な稽古の様子を言い表した言葉です。基本動作(四股・すり足・てっぽう)を、同じ手順で毎日1時間、飽きずに継続してきたそうです。転じて、部活動でも基本動作の繰り返しが大切です。しかし、つつい飽きて、気持ちが揺らいでいないでしょうか。学習でも、まあいいやなどと気を抜くことはないでしょうか。

